



2026年6月期 第2四半期決算説明会

2026年2月18日

株式会社キャンバス
(東証グロース 4575)

有望な最先行化合物CBP501

- 作用機序「免疫コールド→ホット」
- 化合物や会社の特徴に合った初期開発対象「膵臓がん3次治療」
 - ✓ 承認された既存治療なし・免疫チェックポイント阻害抗体が効きにくい
- ✓ 3剤併用臨床第2相試験で得られている「有望な臨床データ」
- 欧州臨床第3相試験申請
 - ✓ 欧州規制当局からオーファンドラッグ指定受領

後続パイプラインと、今後も継続的に新薬候補を創出する体制

- CBT005（前臨床試験準備中） CBS9106（臨床第1相終了） CBP-A08など
- がん免疫に着目した深い知見の蓄積
 - ✓ 基礎研究と臨床開発との少人数・緊密な連携サイクル

キャンバスの強み がん免疫に着目したパイプライン戦略

中長期の企業価値の源泉として重視

	探索・創出	最適化	前臨床試験	臨床試験	提携・導出 共同研究等
CBP501 創薬パイプライン型展開			第2相試験完了 主要評価項目達成 米国第2b相試験開始承認取得・欧州第3相試験開始申請		
CBT005 免疫スイッチ作動薬 がんの「治癒」を目指す 新たな免疫系抗がん剤	前臨床試験準備				
CBS9106 可逆的XPI1阻害剤 現在は新開発方針検討中	前臨床試験終了し導出			第1相試験完了	2025年6月 全権利返還
CBP-A08 CBP501の系譜に属する ペプチド型免疫系抗がん剤	最適化終了				
IDO/TDO二重阻害剤 ほか※					静岡県立大学 ほか

※ 上記のほか、がん免疫領域で広く基礎研究を展開しています。

※ IDO/TDO二重阻害剤は、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）新規治療薬としての研究も継続（2020年8月4日公表）

各パイプラインの歩み・現状・目標

研究 | 開発



CBP501



目標：
第3相試験早期開始

CBT005



CBS9106



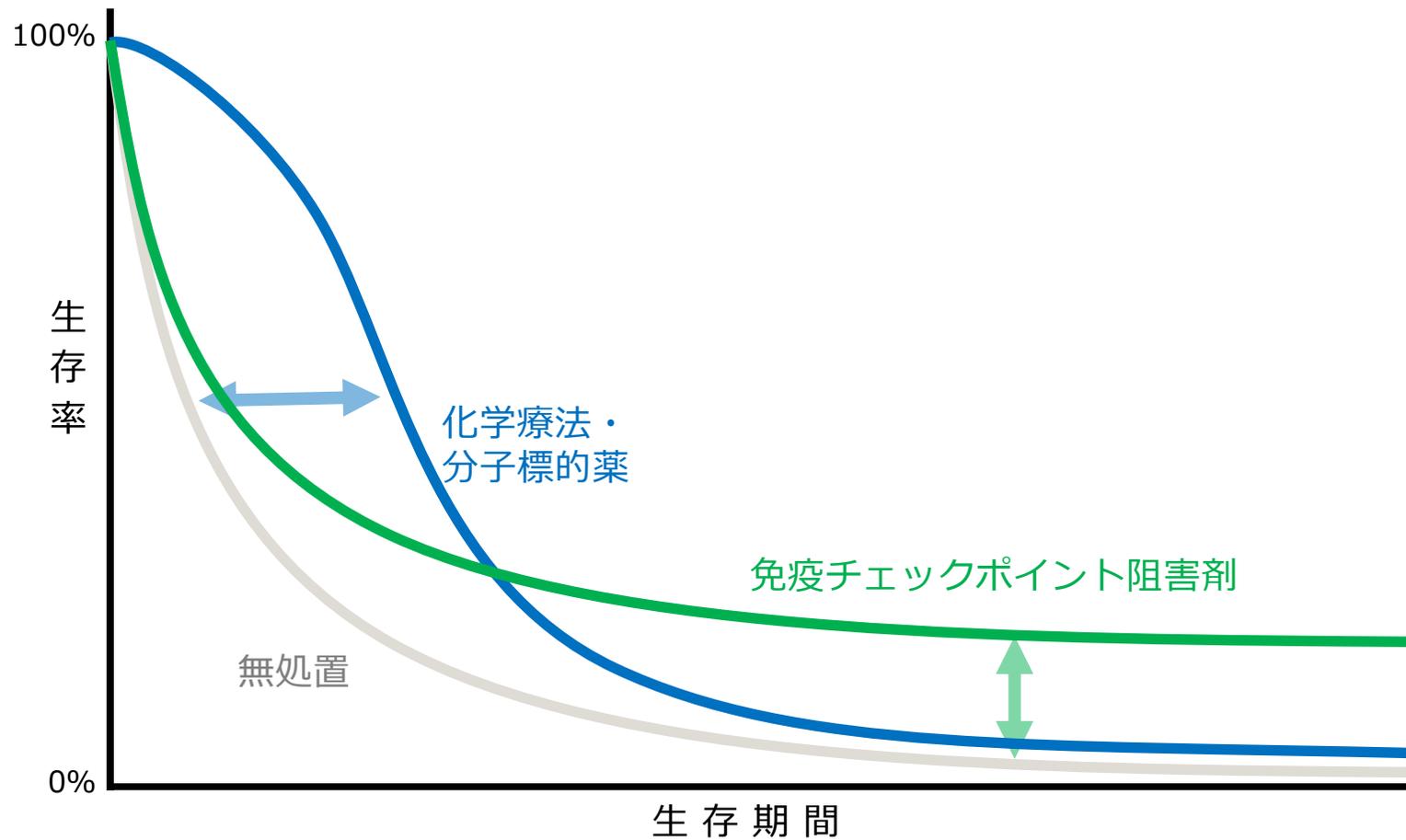
目標：追加で実施する基礎研究の成果等を勘案し、開発方針を検討

CBP-A08



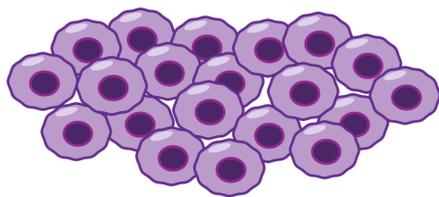
免疫着火剂 CBP501

免疫系抗がん剤は一部の患者様に劇的に効く



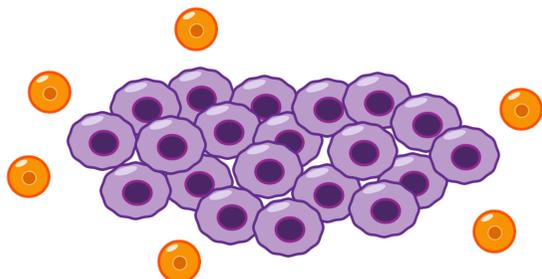
攻撃するための
T細胞がない

免疫砂漠



T細胞ががん組織に
入り込めていない

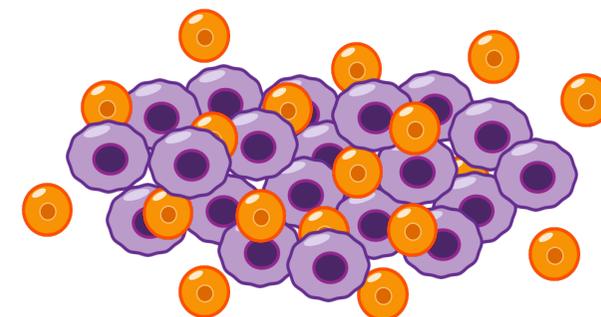
免疫排除



免疫コールドながんを
免疫ホットながんに
変えることが必要

T細胞が十分に
がんを攻撃できる

免疫ホット

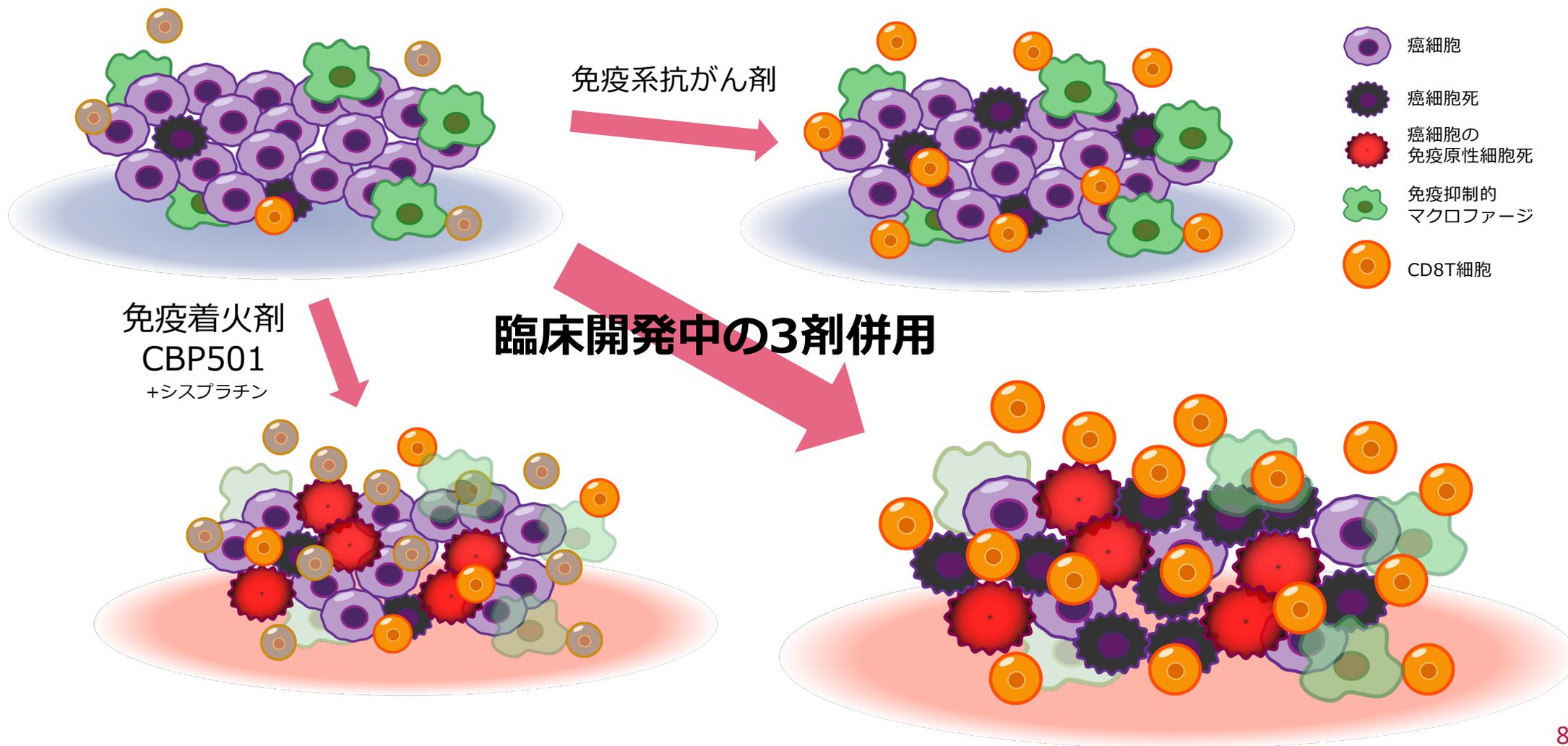


癌細胞



CD8T細胞

CBP501の3剤併用で免疫系抗がん剤を効きやすくする



CBP501 臨床第2相試驗結果

ポスター発表されたCBP501臨床第2相試験結果

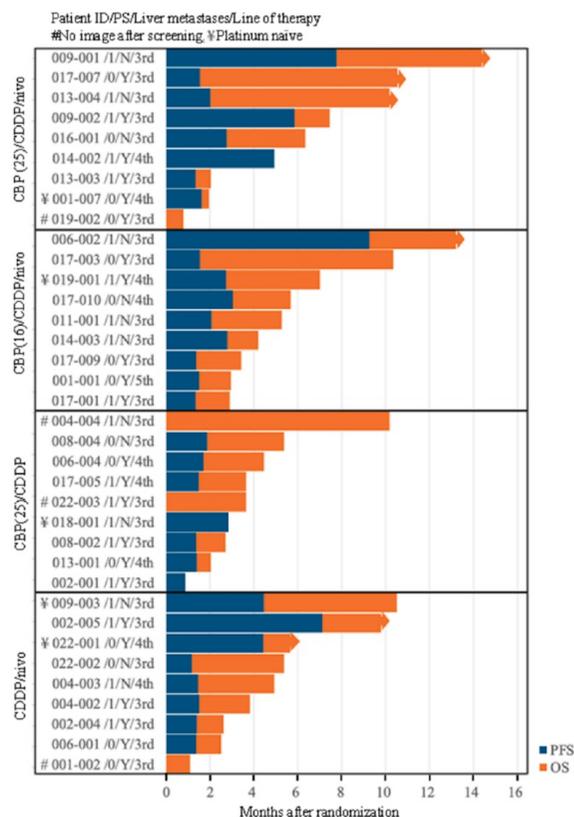
- 主要評価項目 3ヶ月無増悪生存率
 - ✓ 第1群（3剤併用・CBP501 25mg）第2群（3剤併用・CBP501 16mg）で達成
 - ✓ 良好な結果を受け、安全性モニタリング委員会はステージ2に進まないことを推奨
- 副次的評価項目（無増悪生存・客観的奏効率・病勢コントロール率・奏効期間・全生存・安全性）
 - ✓ これらに関する解説は[当社ブログ記事](#)（2023年10月24日）をご参照ください
- 結論

CBP501・シスプラチン・ニボルマブの併用療法は、転移性膵臓腺がんに対する3次治療として、**忍容性のある安全性**で、3ヶ月無増悪生存率、無増悪生存期間および全生存期間において、**持続的な奏効と臨床的に意義のある改善**をもたらした。この化学免疫併用療法は、さらなる検討を進めるべきである

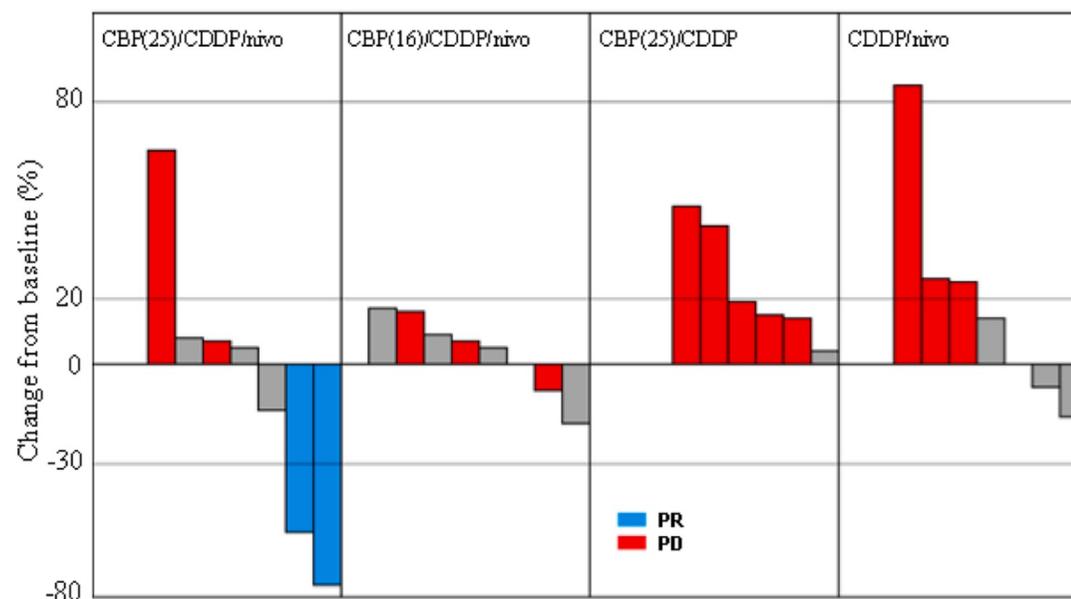
CBP501臨床第2相試験データ論文発表

European Journal of Cancer誌で論文発表したPFS・OS、腫瘍の縮小

■ PFSとOSを示すスイマープロット図

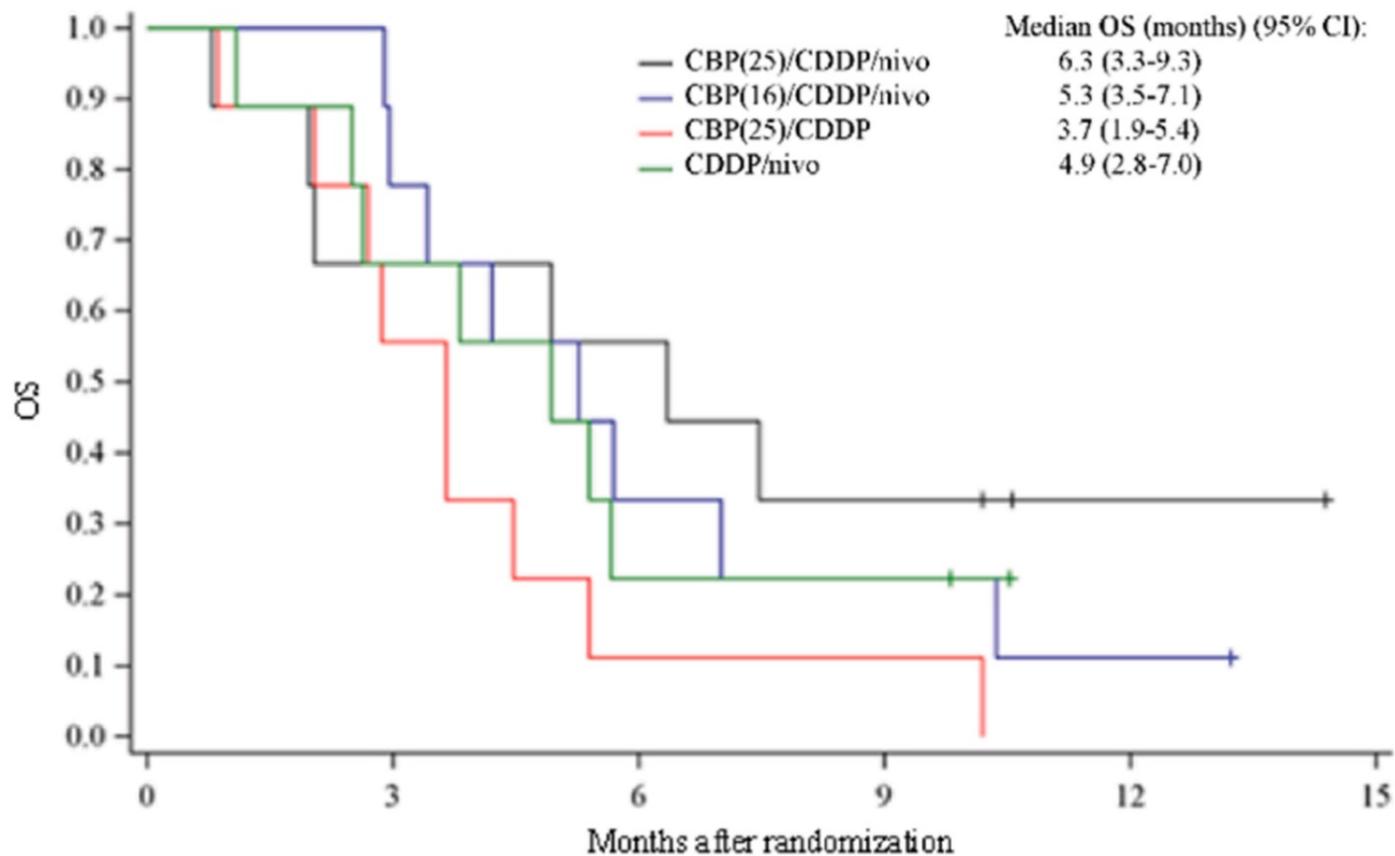


■ 腫瘍の増大/縮小を示すウォーターフォール図



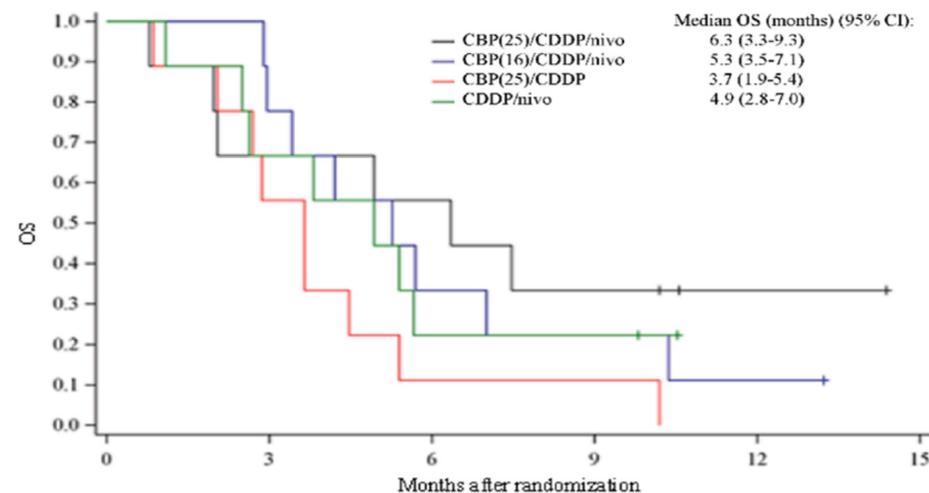
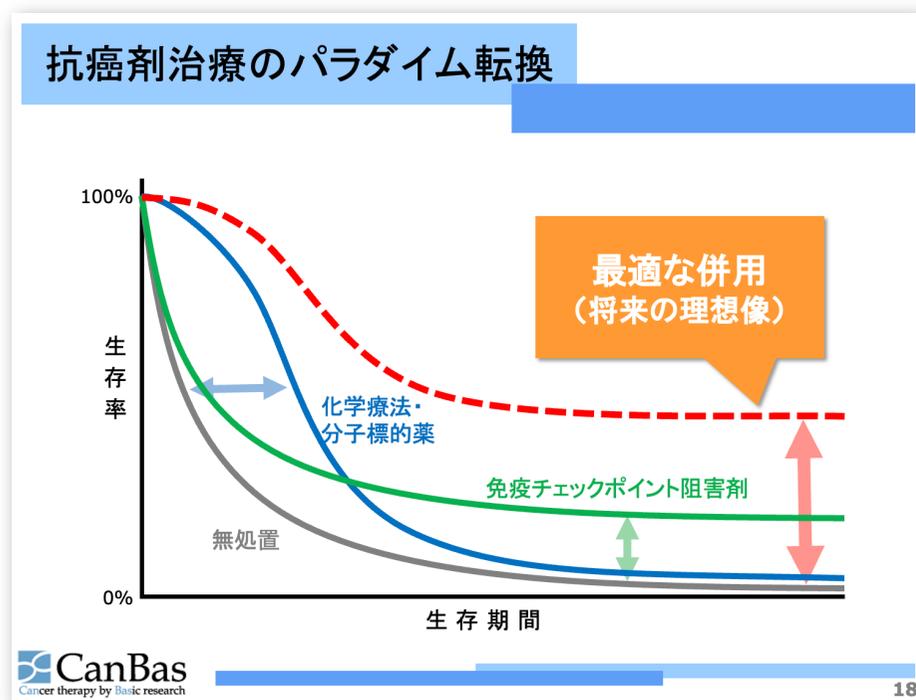
CBP501臨床第2相試験データ

European Journal of Cancer誌で論文発表した生存曲線



目指してきた「最適な併用」への前進

過去の当社プレゼンテーション資料で目指したデータに近づいています



2015年8月 「株式会社キャンバス2015年6月期決算説明会資料」

CBP501 欧州臨床試験準備

欧州臨床第3相試験開始申請と準備の状況

- 開始承認取得の不確実性
 - ✓ **時期の不確実性**：当社でコントロール不能な不確実性が現在も存在
 - ✓ 開始承認取得の**時期以外の不確実性**：顕在化のおそれは着実に低下
 - ✓ 開始承認を受領後に試験を迅速に開始するための準備（実施施設との契約など）も継続
 - ✓ **時期以外**でも状況が悪化したときは米国第2b相試験への移行を検討。**現状はその兆候なし**
- 臨床第3相試験費用見通し：45-50億円の見通しに現時点で変更無し

開発完了目標

- 開発完了目標時期変更（2025年10月24日）
 - ✓ 仮にすぐ開始承認を得たとしても、2027年新薬承認・上市の目標達成は困難 → 目標として不適切
 - ✓ 「**時期以外の不確実性**」が顕在化したものではない
- 新たな目標は開始承認を獲得後に当該開始承認の内容等も考慮して決定

(注) 時期の不確実性・時期以外の不確実性

欧州臨床第3相試験開始申請に伴う不確実性の種類を区別してお伝えするために、当社投資家リレーションでは「時期の不確実性」「時期以外の不確実性」とを分けて使用しています。

時期の不確実性

- 時間さえかければ解決できるが、その時期が見通せない種類の不確実性
 - ✓ もともと当局対応には時間がかかる/時間の読めない要素が多数
 - ✓ 薬剤製造に関する規制適合対応などもこれに該当
- 将来の企業価値には基本的に影響がなく、現在価値への影響も比較的軽微

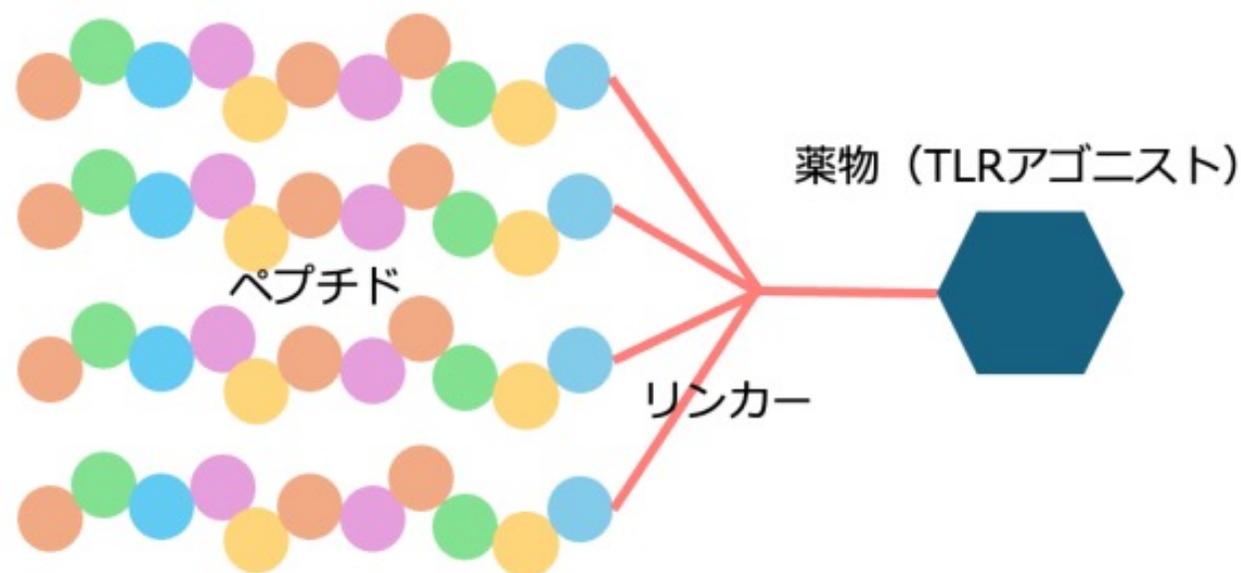
時期以外の不確実性

- 時間やコストをかけても解決を見通せない種類の不確実性
 - ✓ 臨床試験開始不可や、当社の志向するプロトコルからかけ離れた内容の開始承認となるケースが該当
 - ✓ 米国臨床第2b相試験への移行やCBP501臨床開発中断など、事業計画全般の見直しが必要に
- 中長期的な企業価値に与える影響が大きく、時期の不確実性とは分けて考えるべき

免疫スイッチ作動薬 CBT005

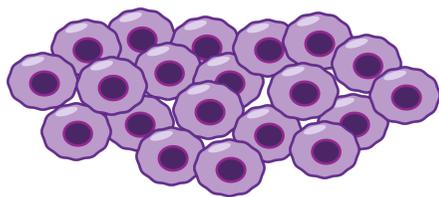
☒ ホスファチジルセリンに結合するペプチド4つと薬物をリンカーで結合させた**PDC** (Peptide-Drug Conjugate)

- 狙い：死にかけてたがん細胞の新生抗原を利用して免疫スイッチを切替える
- 模式図

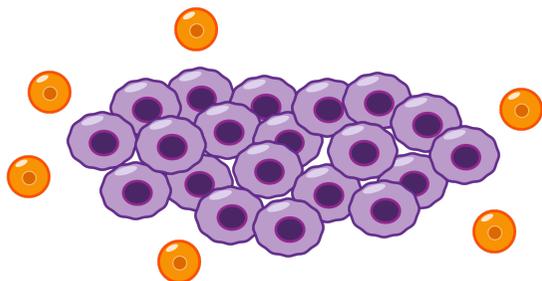


CBT005も「免疫コールド/ホット」のアプローチ

攻撃するための
T細胞がない
免疫砂漠

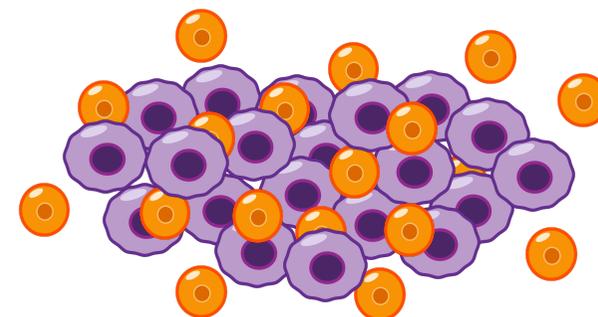


T細胞ががん組織に
入り込めていない
免疫排除



**免疫コールドながんを
免疫ホットながんに
変える**

T細胞が十分に
がんを攻撃できる
免疫ホット

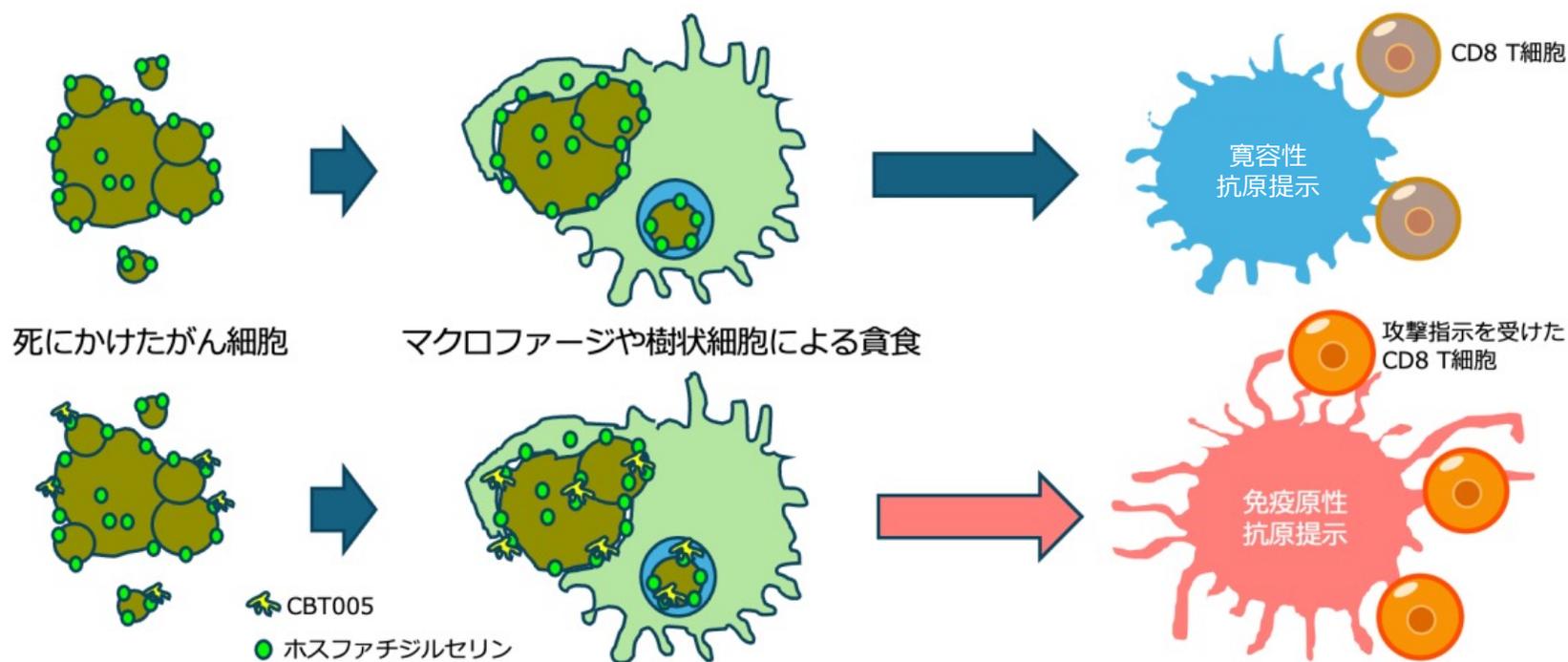


 癌細胞  CD8T細胞

免疫スイッチ (ImmunoSwitch)

- 抗原提示細胞のTLRを活性化し、T細胞への指示を「**攻撃する**」に切替える

《想定している作用機序》



現在：前臨床試験準備中

- 前臨床試験（臨床試験開始承認に必要な非臨床試験パッケージ）に向けた大量合成
- 大量合成準備と並行し、さらなる改善（仮称：CBT006）も検討
 - ✓ 他のTLRアゴニスト臨床試験で報告されている副作用の軽減
 - ✓ 薬効の向上
 - ✓ 知的財産権の強化

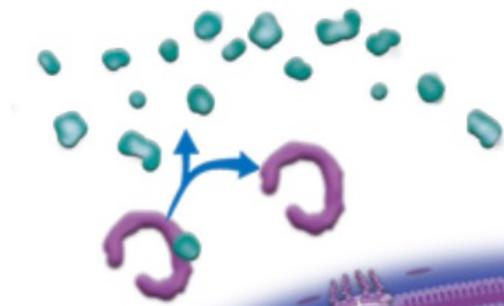
今後の展開

- 引き続き前臨床試験の早期開始を目指す
- 改善の成果があればCBT006を候補として選定する可能性も
 - ✓ 大量合成準備への影響は軽微

可逆的XPO1阻害剂 CBS9106

XPO1阻害による抗がん活性のしくみ

XPO1による核外排出



核膜孔
複合体
(出入り口)

XPO1 (exportin 1)

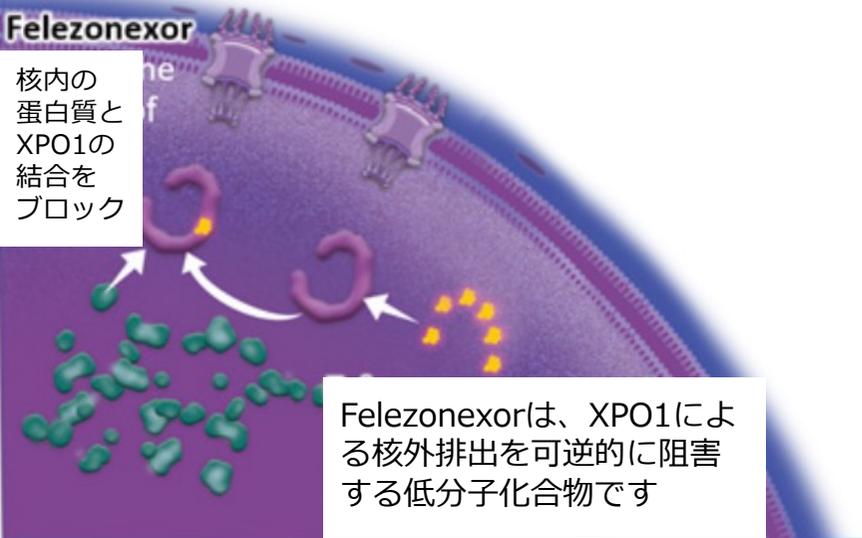
XPO1は、がん抑制因子、細胞周期阻害因子、転写因子など、がん細胞にとって都合の悪いさまざまな蛋白質を核外へ運び出しています

Felezonexor (CBS9106) によるXPO1阻害

Felezonexorは、がん細胞の細胞周期停止とアポトーシスを誘導することが示されており、固形がんおよび血液がんに対する傷害性を有します

Felezonexor

核内の
蛋白質と
XPO1の
結合を
ブロック



Felezonexorは、XPO1による核外排出を可逆的に阻害する低分子化合物です

☒ 臨床第1相試験を有望なデータとともに終了

☒ 「安全性」「有効性」「使いやすさ」でXPO1阻害剤の**ベスト・イン・クラス**へ

➤ 上市済みのXPO1阻害剤：XPOVIO(Selinexor) 米国Karyopharm社
適応：びまん性大細胞B細胞性リンパ腫・多発性骨髄腫

✓ XPOVIOは副作用が多く、適応も血液癌の一部に限られている

直近の臨床試験（STORM study、多発性骨髄腫対象）

・・・89%の患者でグレード3以上の重篤な副作用報告、少なくとも2例の死亡報告

➤ CBS9106の優位性

✓ 安全性：最大耐用量の高さ（Stemline社による臨床第1相試験、ESMO2020報告）

・・・背景には、CBS9106のXPO1分解作用* による副作用の小ささ

✓ 有効性：複数の固形がんで薬効の兆候（Stemline社による臨床第1相試験、ESMO2020報告）

✓ 使いやすさ：臨床現場で使いやすい経口剤

* CBS9106は、XPO1による基質輸送を阻害したあと、XPO1を分解することがわかっており、細胞は新たなXPO1を産生して正常な機能を保とうとするため、副作用の小ささが期待できる。

CBS9106 ライセンス契約解消・全権利返還と今後

Stemline社とのライセンス契約経過

- 2014年12月 日中台韓を除く全世界を対象にライセンス導出
- 2018年8月 ライセンス対象地域を上記地域を含む全世界へ拡大
- 2025年6月 ライセンス契約を解消し、開発及び商品化に関するすべての権利が当社に返還

ライセンス契約に基づき受領済みの収益

- 契約一時金・・・2014年12月 10百万円、2018年8月 5百万円 それぞれ受領済
- 技術アドバイザリーフィー・・・2014年12月～2021年6月 累計702百万円 受領済

今後の展開

- 返還手続き終了後、当社は具体的な臨床開発計画を策定するための基礎研究を実施
(基礎研究費予算の範囲で実施するので短期的な業績への影響なし)
- 今後、追加で実施する基礎研究の成果や会社の財務状況などを勘案して、開発方針を検討

臨床試験前段階の研究開発

基礎研究～非臨床試験段階のプロジェクトの状況

基礎研究～前臨床試験準備段階のパイプライン (ピックアップ)

➤ IDO/TDO二重阻害剤

- ✓ 静岡県立大学と共同研究で最適化を進行中
- ✓ 日本・米国で特許成立 (2023年6月6日・2024年9月10日公表)
- ✓ ファルマバレーセンターによるアライアンス活動開始 (2025年4月2日公表)

➤ CBP-A08

- ✓ 最適化を完了し、財務状況等を勘案し前臨床試験開始を模索

➤ NEXTプロジェクト

- ✓ 新たなコンセプトの免疫系抗がん剤候補化合物の探索創出
- ✓ インタージェルスケアとAI (人工知能) を利用した創薬共同研究 (2024年12月25日公表)

➤ 抗がん剤感受性予測システム

2026年6月期第2四半期 決算・財務の状況

2026年6月期2Qの業績 (1)損益計算書

2026年6月期2Q損益計算書のポイント

- 事業収益計上なし
- CBP501臨床開発を中心に研究開発先行投資
 - ✓ 事業費用 600百万円の内訳：
基礎研究費*1 105百万円（前年116百万円） 臨床開発費*2 339百万円（同206百万円） 販管費 155百万円（同145百万円）
臨床開発費はCBP501欧州臨床第3相試験申請・開始準備関連費用
 - ✓ 営業外損益（為替差益 29百万円）

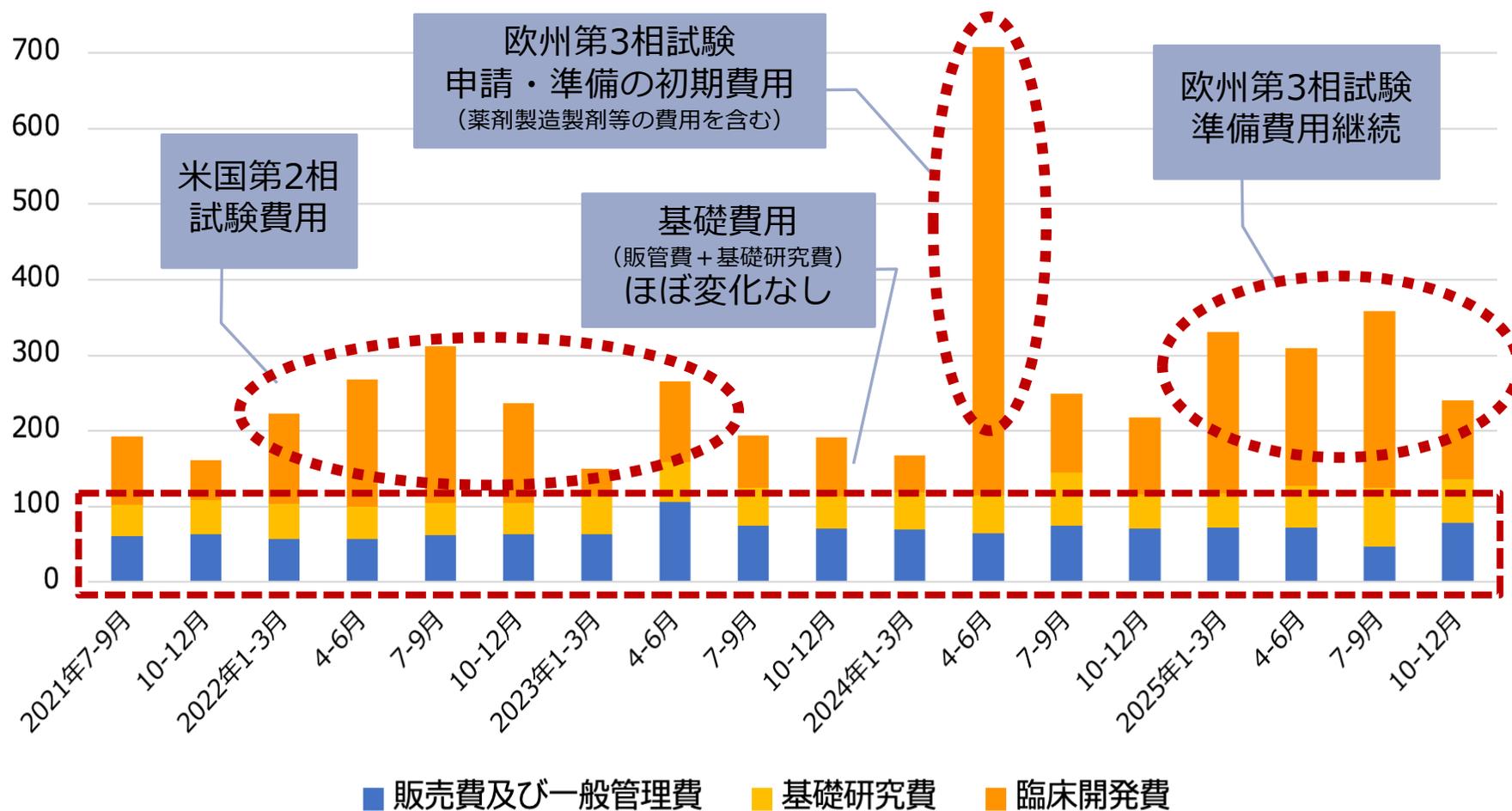
	2026年6月期2Q	前年2Q比	注
事業収益（売上高）	— 百万円		
営業利益	△600 百万円	損失増 131 百万円	
経常利益	△568 百万円	損失増 88 百万円	
当期純利益	△568 百万円	損失増 88 百万円	

*1 共通の人員・設備・消耗品等が多数あるため、基礎研究段階のプロジェクト個別の費用内訳は算出していません。

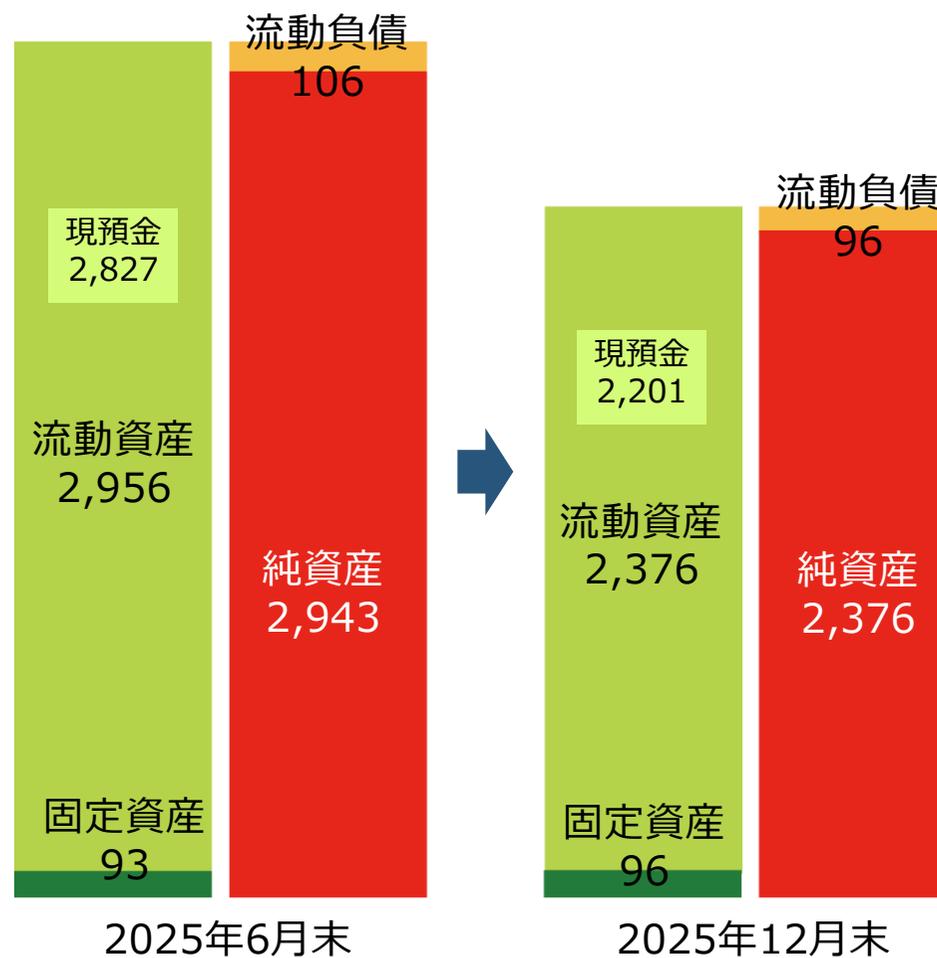
*2 臨床開発費は全額がCBP501関連の費用です。CBS9106・CBT005に関する費用はありません。

事業費用は主に臨床試験関連費用で増減

四半期会計期間の事業費用推移 (単位百万円)



2026年6月期2Qの業績 (2)貸借対照表の推移 (単位：百万円)



*百万円未満切り捨て表示のため合計などが一部一致しません。

企業価値評価向上への施策

成功時の
パイプライン
価値の
総和

×

rNPVを求める
ディスカウント

=

足元の市場評価

■ 一般的ディスカウント要因

- 成功確率
- 時間価値

■ 当社/創薬に特有の要因

- 開発継続資金の懸念
- 評価の困難性
 - ✓ 一般に代替的評価方法とされてきた製薬企業提携の有無や内容が使えない
- 情報開示の制約
 - ✓ 臨床試験準備情報
 - ✓ 規制当局との協議内容

■ 足元の市場評価状況

- パイプライン価値の周知
- 開発継続懸念は後退したまま維持
- CBP501臨床試験開始申請に関する「時期」と「時期以外」（試験実現可否など）の不確実性

■ 市場評価の向上に向けて

- **CBP501臨床試験開始申請の進捗**
- **企業価値を伝えるIRの継続**
- **開発資金と継続性を維持する資金や体制の確保**

現在のキャンバスの企業価値を評価する視点

CBP501のパイプライン現在価値

利益実現までの開発期間・成功確率・不確実性

✓ CBP501臨床第3相試験を完遂できるか

- 欧州臨床試験開始承認獲得の期待（時期/時期以外の不確実性）
- 期間見通し、成功確率、開発環境や開発資金の確保

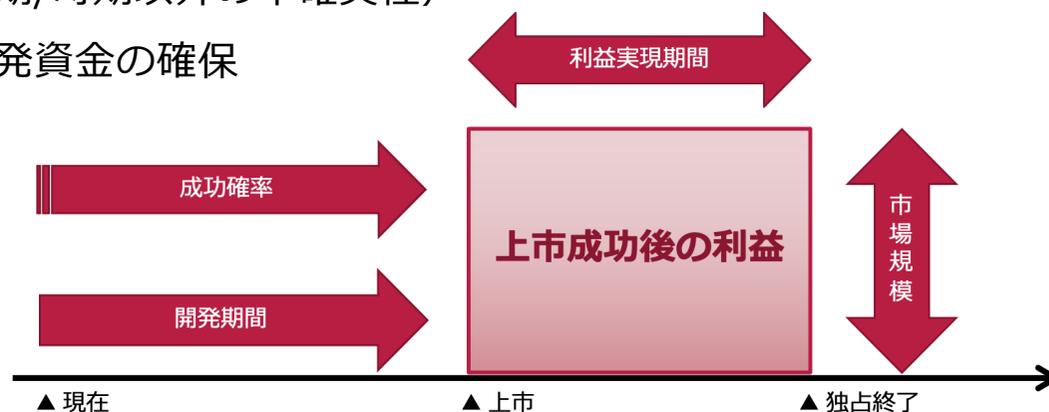
✓ 新薬承認を獲得できるか

- これまでの良好な臨床試験データ

CBP501上市成功後の利益

✓ 上市成功時の成功規模

- 欧州ほか主要市場の患者数・薬価・シェア、他のがんへの適応拡大の期待
- オーフアン指定による欧州10年・米国7年の独占保護



後続パイプラインと、今後も継続的に新薬候補を創出する体制の価値

開発資金確保に関する認識

2023年ファイナンス：概ね成功裏に完了

- 第三者割当増資・新株予約権行使の合計で40億円超の調達
 - ✓ 7.3億円の確実なアップフロント調達
 - ✓ 新株予約権での調達は約33億円にとどまったが、株価への短期的なインパクトを抑制しつつ平均行使価額1,015.1円（下限行使価額+約4.5%）で段階的調達を実現

今後：臨床第3相試験開始資金に問題はなく、状況に応じ判断・対応

- 第3相試験資金需要と支出時期の不確実性
 - ✓ 当初の見込費用45～50億円
 - 一部は既に支出済み。今後、試験開始時期・プロトコル・実施施設数・被験者組入ペース等によって、費用と支出時期は変動
- 追加資本政策を検討する場合のポイント
 - 株主価値の毀損や希薄化を可能な限り回避・抑制するタイミングと方法を追求

今後想定されるニュースフロー

CBP501関連

- 欧州臨床第3相試験開始承認受領
 - ✓ 時期には不確実性があります
 - ✓ 時期以外の不確実性は（予断は許さないものの）着実に減少しつつあります
- 臨床試験
 - ✓ 臨床試験実施施設オープン（～50施設を計画） = 被験者募集開始
 - ✓ 開始承認受領から実施施設オープンに至る期間をより短縮するための準備も進捗
 - ✓ 最初の被験者への投与（FPI）

その他

キャンバスに関する情報

キャンバスの現状を知る情報源

- 📄 ウェブサイト <https://www.canbas.co.jp>
 - 会社ご紹介資料 <https://www.canbas.co.jp/company-presentation/>（不定期更新）
 - マネジメントブログ <https://www.canbas.co.jp/blog/>（不定期更新）
- 📄 X（旧Twitter）公式アカウント <https://twitter.com/canbas4575>
 - フォロワー7,000人超。主に個人投資家向けの情報発信/Q&Aチャンネルとして定着
- 📄 アナリストレポート
 - フェアリサーチ 2025年9月8日最新版『[Phase3開始に向けて着実な歩みは継続中](#)』
 - シェアードリサーチ（随時更新） <https://sharedresearch.jp/ja/4575>
- 📄 TV・インターネット番組等出演
 - 2025年6月期決算説明会動画・テキスト（[2025年8月19日開催](#)）
 - アイロゴス主催 櫻井英明WEB株式講演会&企業IRセミナー
[2025年2月22日開催](#)（河邊登壇） [2025年6月18日](#)（加登住登壇）

東京証券取引所事例集に掲載

- ▶ 『[投資家が評価しているグロース上場企業の取組み事例集](#)』（2025年12月26日）
- ▶ グロース上場企業に対する投資家の期待 7項目中4項目で高評価
 - #1「成長の持続・加速を期待させるビジョン・戦略」
 - #2「具体的かつ説得力のあるエクイティ・ストーリー」
 - #4「目先の赤字を過度に懸念せず、成長投資を推進」
 - #6「自社の成長ステージに合った投資家層を狙い、効果的な情報発信・IR活動」

新たな株価指数に選出

- ▶ 成長性に着目した新指数「[JPXスタートアップ急成長100指数](#)」（2026年2月13日）
 - ✓ 東証グロース市場に上場する銘柄等から成長性基準（売上高成長率or時価総額成長率）で選定
 - ✓ 2026年3月9日から配信開始





■本資料に関するお問い合わせ先： 株式会社キャンバス 管理部 IR担当 Email IR@canbas.co.jp